

第3学年 地歴公民科 学習指導案

沖縄県立具志川高等学校 教諭 澤岷 良子

1. 単元名 労働問題 ―男女共同参画社会に向けて―

2. 単元の目標

- ・ 現代の日本が抱える経済的な諸課題、労働問題、社会保障制度の存在を理解する。(知識・技能)
- ・ 現代の労働問題、男女格差についての諸課題との関わりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で、考察し表現する。(思考・判断・表現)
- ・ 現代社会の諸問題について、よりよい社会の実現を視野に主体的に解決に向けて考察する(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

日本における女性の参画状況をみると、国会(衆議院)では、全体に占める女性議員の割合は9.9%であり、地方公共団体の首長における女性の割合は4.3%と極めて低い。G20では最下位であり、193か国中166位である。また、ジェンダーギャップ指数は、153か国中121位である。世界に目を向けても、日本の女性の活躍はまだ不十分であり、女性の社会進出にはまだ課題が多くあると考える。その課題点に着目し、日本の男女格差について、教育、経済、保健、政治の分野から、課題が何なのかを、性別にかかわらず、すべての人が能力を発揮できる社会にするためには、どうすればよいだろうか、を考える教材に工夫していく。

(2) 生徒観

本校の生徒は、卒業後、9割の生徒が上級学校へ進学する。環境問題や、社会問題について関心が高く、意識を持ち行動している生徒が多い。特に「労働問題」「男女格差」は生徒の身近な問題でもあり、興味、関心が高い。特に、ジェンダー平等についての意識が高く、生徒総会では、男女混合名簿や、制服の平等を訴え、生徒会を中心に改革している。生徒の身近な問題から、具体的な例を出して授業を進めることで、授業で学んだ政治、経済分野を身近にある社会問題を自分ごとに捉え、気づき行動できる生徒である。

(3) 指導観

憲法28条勤労権、29条労働三権、その他に様々な法律によって労働者の人権が守られていることを理解させる。そして、現在の労働問題は何か、改善するためには何が必要なのかを探究させたい。その中でも男女共同参画社会に向けて、日本の男女各差に目を向けさせ、世界各国と日本を比較させることで、違いに気づき、ソマティック・マーカーが働かせ、興味・関心を持たせたい。ジェンダー平等が進んでいる国と日本の違いをグループで話し合わせ、グループごとに発表する。歴史的な背景、福祉、経済面について、多角的・多面的に捉えられるように、適切な表現で考えをまとめるような指導を行うことを心掛けたい。男女格差を自分ごとに捉えて、自分の身近な問題や課題に興味関心を持ち、机上の知識だけで終わらせず、どうしたらジェンダー平等な社会になるのかを考察、探究させ、SDGsの目標にも繋げていけるよう授業展開を工夫する。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

【多様性】：世界各国と日本の比較し、教育、経済、保健、政治からみた男女格差の実態を知ることを通して、多様性に気づくことができる。

【相互性】：男女格差における関する理由も、さまざまな要因が相互に関連しあっている。

【連携性】：これから、男女格差のない社会にするためには、国民一人ひとりの意識、また身近な地方行政や、国(政府)の取組みが必要不可欠である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

【クリティカルシンキング】

日本の男女格差についてしっかりと見つけ、解決に必要な施策を考察する。

【協働的問題解決力】

グループの生徒と協力して、課題を見つけ出し、問題解決に取り組む。

【未来像を予測して計画を立てる力】

ジェンダー平等が進んでいる国の対策を考察し、自国の課題に結び付け、これから必要な対策が何なのか、見通しを持って探求する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【世代内の公正】：日本や世界の国々が、世界規模で解決策を追求する。

【人権・文化を尊重する価値観】：男女の人権を尊重しジェンダー平等な社会を築くため考察する。

・達成が期待されるSDGs

・目標5(ジェンダー平等)：ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女性の能力強化を行う。

・目標10(不平等解消)：各国内及び各国間の不平等を是正する。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 労働者の権利を守るための憲法、法律を理解している。	①労働問題、男女格差について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で、考察し表現している。	①日本の男女格差について、主体的に考察し、グループで協働し取り組んでいる。
② 現代の日本が抱える労働問題を理解している。	②男女格差のない社会を実現するために、今後どのような対策が必要なのか、考察している。	②女性が活躍している国と日本の違いについて調べ、今後、日本が必要なことは何かをグループで話し合い考察し、主体的に取り組んでいる。
③ 日本と世界各国の男女格差について理解している。		

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 見 つ め る	<p>問い この写真を見て、気付いたことを隣同士で話しましょう。</p> <p>○出てきた答えから、なぜこのような事が起きたのか考える。</p> <p>○労働者の権利を守り、労働問題を解決するための、憲法、様々な法律、制度が戦後制定されたことを理解する。</p> <p>○グラフを読み取り、日本は賃金や昇進に男女格差があることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PP 使用し、労働者の写真を提示する。 ・注目してほしい箇所を伝え、気付きに結び付ける。 ・女性ばかりだと注目させる ・長時間労働者がいた事実について考えさせる。 ・憲法、労働三法、について知識、理解を深め、グラフから、賃金や昇進など、男女格差があることに気づかせる。 	<p>△イ①</p> <p>△ア① ・ワークシート</p>
2 見 つ め る ・ 調 べ る	<p>問い「この写真を見て、どこの国で、何をしている人か、わかりますか。」</p> <p>「ジェンダー平等が進んでいる国の特徴とは？」</p> <p>○新聞を読んで、日本との違いを見つけてみる。</p> <p>○上位の国を各自で読み取り、どのような国であるか、自分なりに考えてみる。ペアで考えを共有し、全体で発表する。</p> <p>問いこれまでの学習から、男女格差について問題点は何ですか。</p> <p>○各国の男女雇用の比較のグラフを見て、日本の男女格差が大きいことに気づき、発見する。</p> <p>問い「性別にかかわらず、すべての人が能力を發揮できる社会にするためには、どうすればよいだろうか。」「まずは、私たちが生活する中で、男女格差はないか考えてみよう」</p> <p>○ペア、グループで考えて、発表する。</p> <p>○上位の国の教育、経済、保健、政治について調べるため、グループ分かれる。(次の時間からグループで活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PP に、新聞記事の写真のみを映し出す。・次に日本の首相たちの写真も映し出し、同じ立場の人だと、気付かせる。 ・新聞を読んで、日本との違いに気づかせる。 ・PP 使用し、ジェンダーギャップ指数のグラフから、上位の国を読み取らせ、特徴を自分なりに考えさせる。 ・PP を使用し、前時の復習から賃金、昇進の格差があったことを復習し理解させる。 ・新たにグラフを見せて、世界各国の国政参画の格差に気づかせ、全体で共有する。 ・この問いを全体になげかけ、まず自分の身近なところから格差がないか、考えさせる。 ・ペアで考えを共有させ、全体で発表させる。発表後、PP を使用し、新聞記事の内容を読み合わせする。 ・4名グループ作らせる。 	<p>・「フットラングージ」</p> <p>△イ① ・新聞② ・ワークシート</p> <p>△ア②</p> <p>△ア①</p> <p>△イ①</p> <p>・ワークシート</p> <p>・新聞①</p> <p>△ウ①</p>

3 調 べ る	<p>【図書室】【タブレットパソコン使用】</p> <p>○グループで、ジェンダー平等が進んでいる国の教育、経済、保健、政治の分野に目を向けて調べる。特に日本との違いに目を向けて考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや、新聞、書物を活用する。 ・4名グループで、特に、教育、経済、保健、政治に目を向け、調べるように促す。 	<p>△ウ②</p> <p>ワークシート</p>
4 深 め る	<p>問「女性も活躍する社会になるためには、どうすればよいだろうか。」</p> <p>「沖縄で女性活躍を推進している企業はどのような企業なのだろうか」</p> <p>○女性が活躍する企業を知り、どのような取り組みをしているのか、身近なところから興味を持ち探求する。</p> <p>【グループ討議、調べ学習のまとめ】</p> <p>○調べたことについて、グループで話し合い、発表の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業側、行政が実施している取組み、政策をあげて理解させる。 ・新聞を活用し、沖縄の女性活躍を推進している企業を見て、関心を持たせる。 ・グループ討議では、それぞれが調べたことを共有し、各国と日本の違いに着目させる。 ・日本の今後の対策についても、女性も活躍する社会になるためには何が必要か話し合う。 	<p>△ア①</p> <p>△イ②</p> <p>・ワークシート</p> <p>△ウ②</p>
5 深 め る	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が活躍している沖縄の企業の方から話しを聞き、インタビューする。 ・男性教諭で育児休暇を実際に取得した先生の話しを聞き、インタビューする。 	<p>・女性が活躍する為には、どのような取り組みをしているのか、男性の育児休暇取得の際の大変だった事などは何かを知り、今後の対策に必要な事を考えさせる。</p>	<p>△イ②</p> <p>△ウ①</p>
6 広 げ る	<p>【発表】【まとめ】</p> <p>○グループごとに発表する。</p> <p>問「私たちは男女格差のない暮らしをするためには、今後どのように行動していけばいいのだろうか。」</p> <p>○身近なところから考える。また、日本全体の取組みとして必要なことは何だろうか、考え発表する。</p> <p>問 男女共同参画社会の実現は、SDGsの何の目標に繋がるのか、グループで話し合ってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループに分けて発表させる。 ・自分の身近なところから考え、次に日本全体に目を向けて考えさせる。前時の各グループで討議した内容を踏まえて考えるよう促す。 ・日本は、男女雇用機会均等法など、男女格差を是正する法律や政策があるが、それでも男女格差が大きいのは、なぜだろうか、考えさせる。 ・ワークシートにR80用い、各自の意見を記入させ、発表させる。 	<p>△イ②</p> <p>△ア③</p> <p>・イ①</p> <p>・ワークシート</p>

